

SSS015-P09

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

## 重合前マイグレーションから得られた太平洋プレート深部地殻構造の特徴

### Characteristics of deep crustal structure in Pacific plate by prestack migration

山下 幹也<sup>1\*</sup>, 小平 秀一<sup>1</sup>, 藤江 剛<sup>1</sup>, 三浦 誠一<sup>1</sup>, 海宝 由佳<sup>1</sup>, 山本 揚二郎<sup>1</sup>, 野口 直人<sup>1</sup>, 高橋 成実<sup>1</sup>

Mikiya Yamashita<sup>1\*</sup>, Shuichi Kodaira<sup>1</sup>, Gou Fujie<sup>1</sup>, Seiichi Miura<sup>1</sup>, Yuka Kaiho<sup>1</sup>, Yojiro Yamamoto<sup>1</sup>, Naoto Noguchi<sup>1</sup>, Narumi Takahashi<sup>1</sup>

<sup>1</sup>海洋研究開発機構

<sup>1</sup>JAMSTEC

海洋研究開発機構では2009年に3つの航海 (KR09-06, KR09-07, KR09-17) において太平洋プレート上を横断する測線で沈み込む前の海洋地殻の特徴を明らかにすることを目的として反射法地震探査を実施した。A2測線 (北西太平洋) の南半分とA3測線 (三陸沖) は発振間隔が200mと粗いが深部構造については高品質のデータが取得できた。得られた反射断面から薄い堆積層, 地殻内反射面, モホ面と思われる反射面が確認できた。各測線とも明瞭なモホ面が往復走時10秒付近で確認されたため, 北西太平洋から房総沖までアウターライズに至るまでの地殻の厚さはほぼ一定であると考えられる。またアウターライズより東側では上部地殻の上面からモホ面まで到達するような30度近くに傾斜した反射面が多数確認された。本研究ではそれらの構造についてOBSによる速度構造を参考に重合前マイグレーションを適用することによって詳細にイメージングを行い, 角度・形状などの特徴や形成過程を明らかにしていく。

キーワード: 反射法地震探査, 太平洋プレート, 重合前マイグレーション

Keywords: MCS survey, Pacific plate, prestack migration